
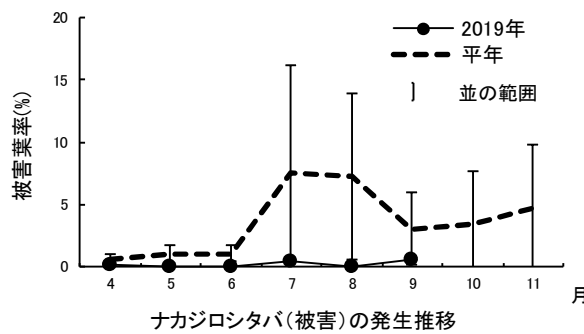
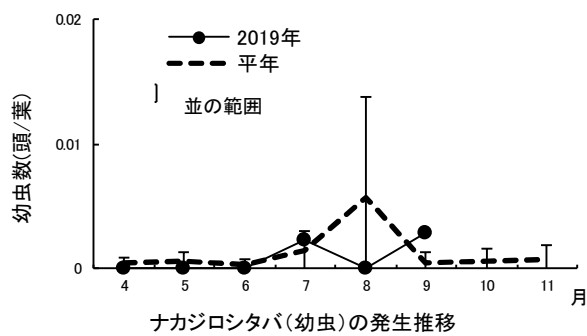


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→) 台風襲来の影響	

調査結果

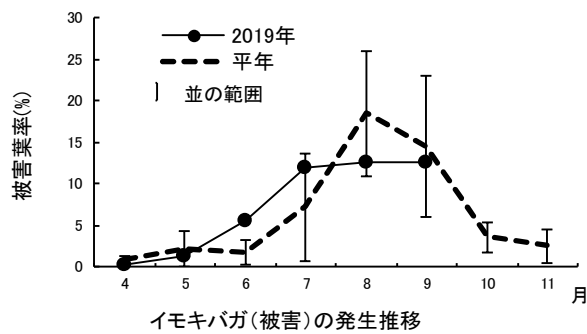
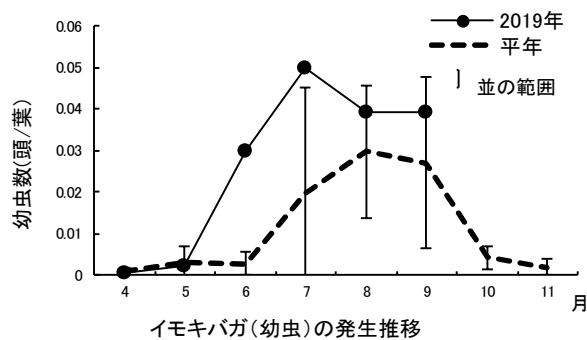


防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② イモキバガ		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

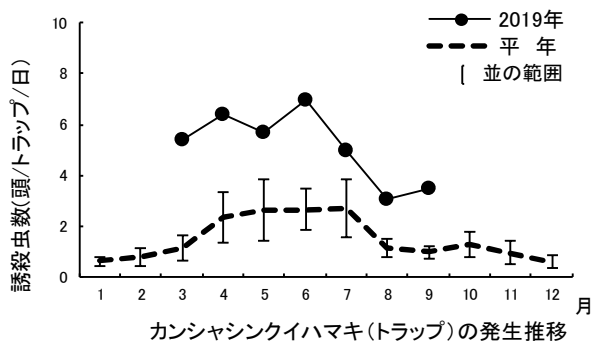
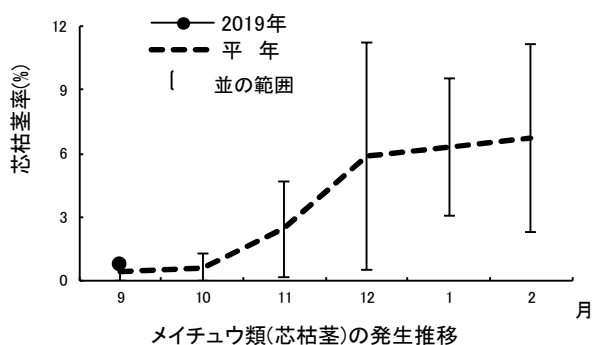


防除のポイント

- ・ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



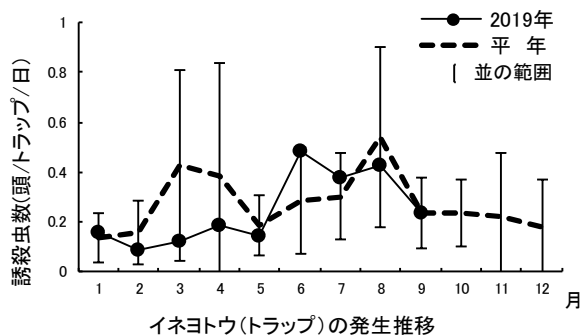
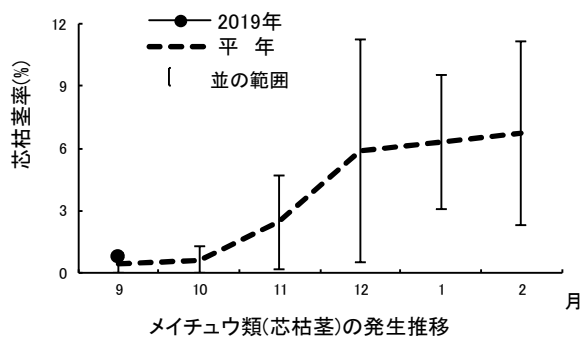
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類 (11頭) のうち11頭(100%)がカンシャシクイハマキであった。
- ・ 病害虫防除員報告：多発生 (久米島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→) トラップ誘殺虫数が平年並	


調査結果



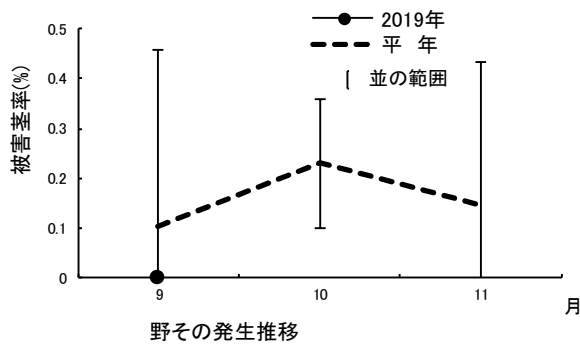
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類 (11頭) のうち11頭(100%)がカンシャシクイハマキであった。
- ・ 病害虫防除員報告：多発生 (久米島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび		地域	沖縄本島
病害虫名	③ 野そ			
予報	10 月の発生量（平年比）	並		
	9 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	9 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果




- ・病害虫防除員報告：多発生（久米島）

防除のポイント

- ・管理されていない耕地などで繁殖するため、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- ・野積みされた剥葉残さなどに巣を作るため、野積みを行わない。
- ・被害は台風で倒伏した収穫前のほ場で多い。
- ・被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

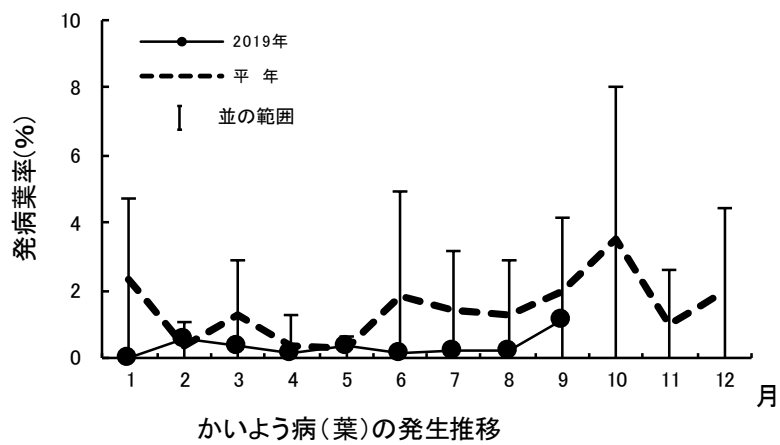


野そによる茎の食害

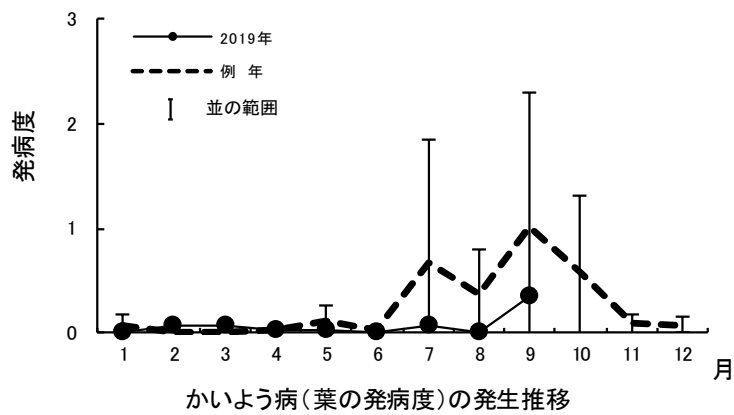
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	10 月の発生量（平年比）	並	
	9 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	9 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	台風襲来の影響 平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

(発病葉率)




(葉の発病度)



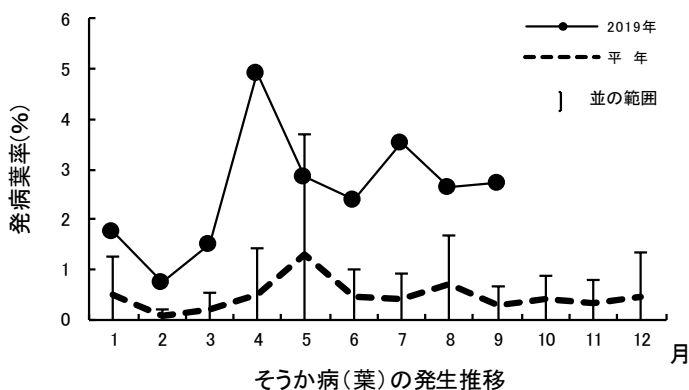
防除のポイント

- ・罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。

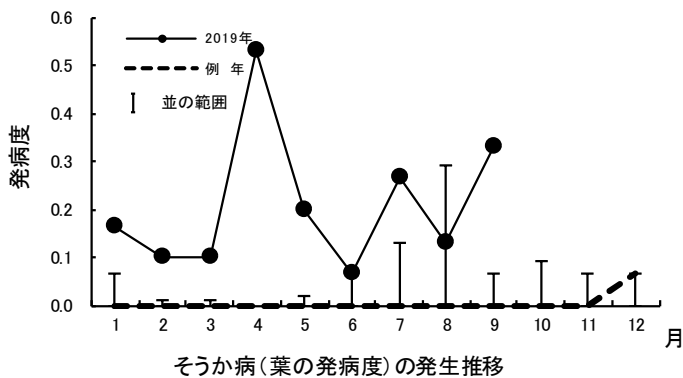
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
予報	10 月の発生量（平年比）	多	
	9 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	9 月の発生量（平年比）	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

(発病葉率)



(葉の発病度)



防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

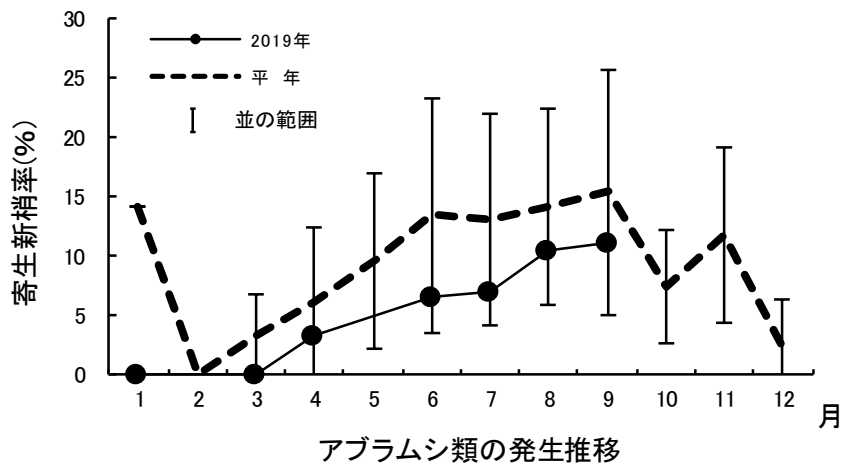
被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	10 月の発生量（平年比）	並	
	9 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	9 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↓）	



調査結果




- ・ 発生種：ユキヤナギアブラムシ（ミカンミドリアブラムシ）、ワタアブラムシ

防除のポイント

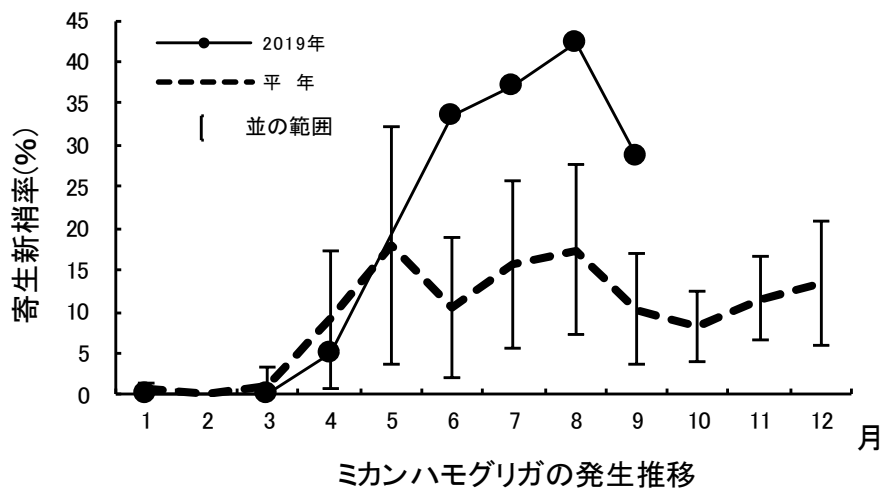
- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。






作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
予報	10 月の発生量（平年比）	多	
	9 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	9 月の発生量（平年比）	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

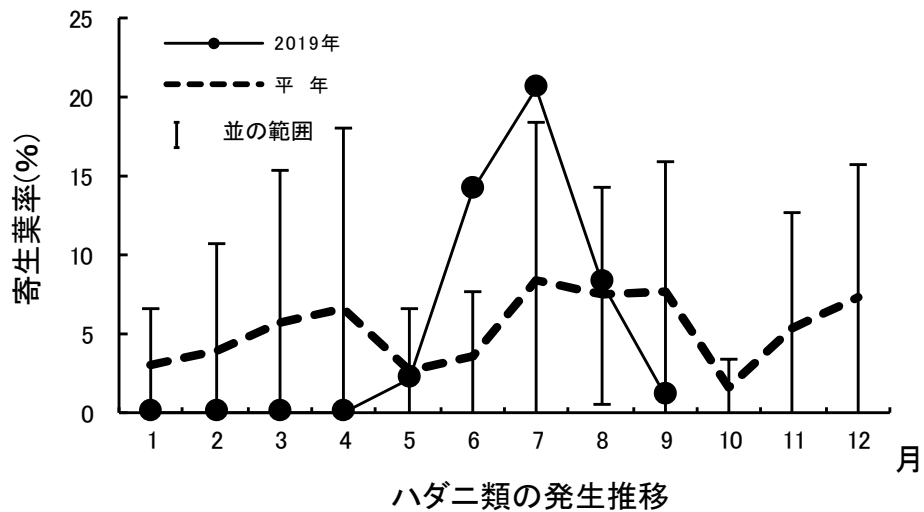


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすく、翌年の伝染源になるので除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
予報	10 月の発生量（平年比）	並	
	9 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	9 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↓）	

調査結果




防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

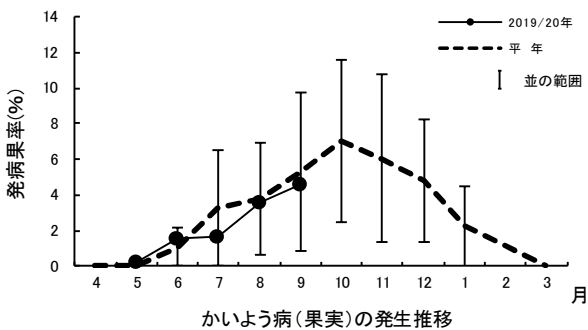


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

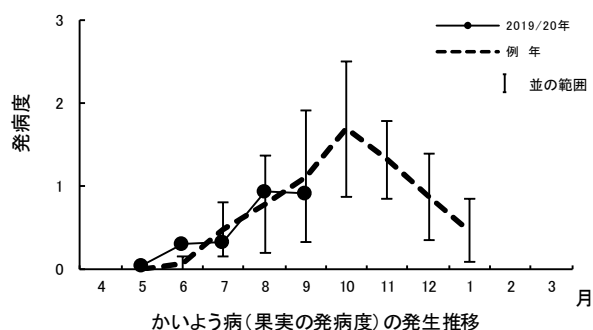
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	台風襲来の影響 平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

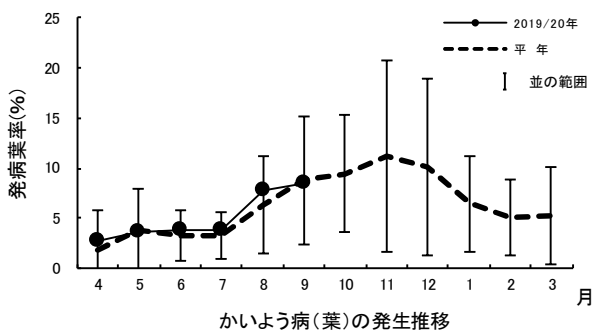
(発病果率)



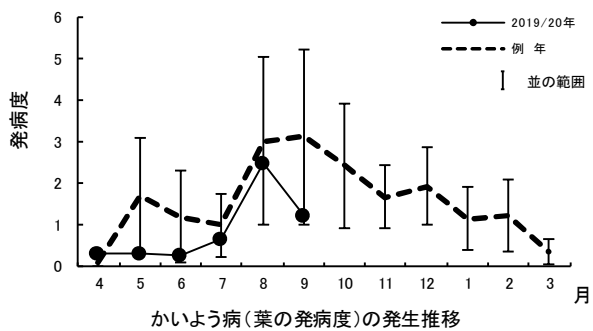
(果実の発病度)



(発病葉率)



(葉の発病度)




・ 病害虫防除員報告：多発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

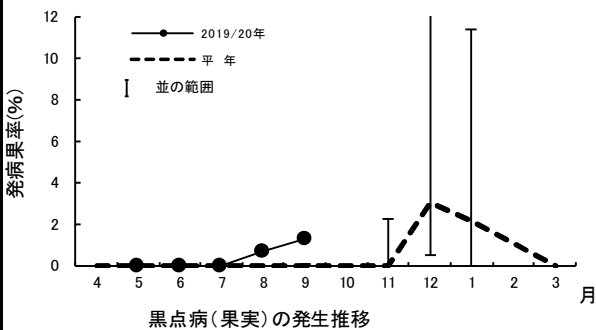
被害葉→



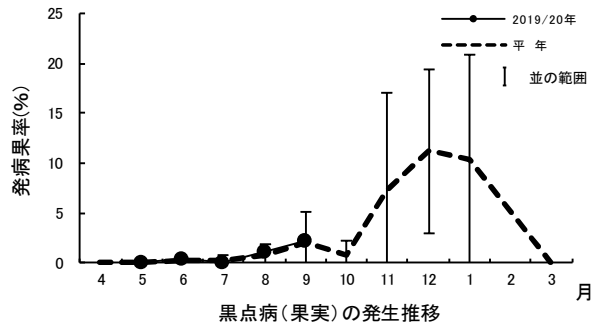
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
予報	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
	9 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

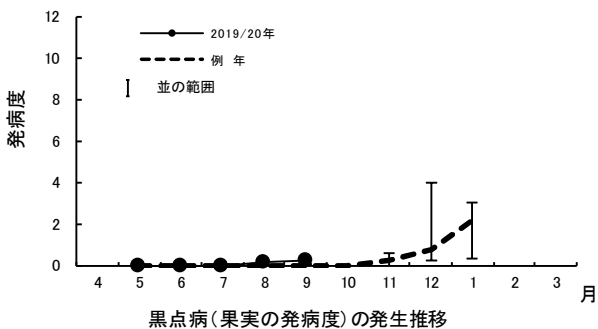
(発病果率/中央値)



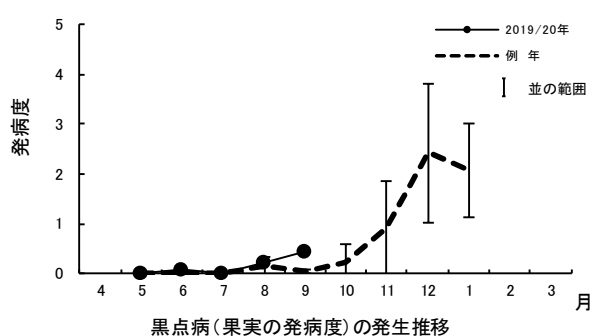
(発病果率/算術平均)



(果実の発病度/中央値)




(果実の発病度/算術平均)



・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

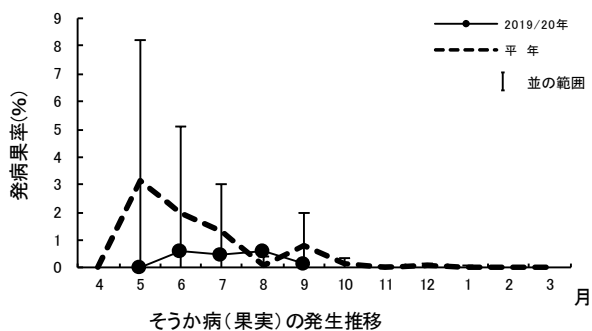
防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

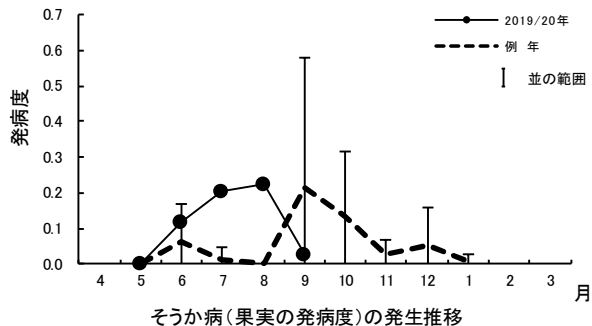
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (∨) 発病葉率が平年より多い	

調査結果

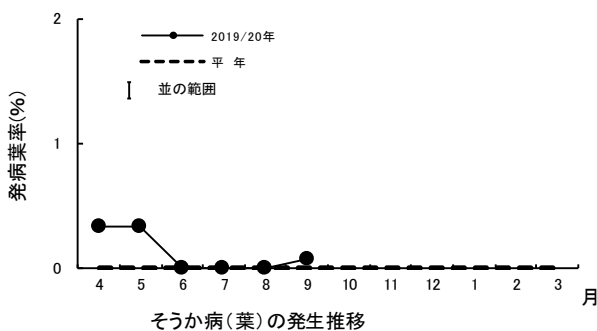
(発病果率)



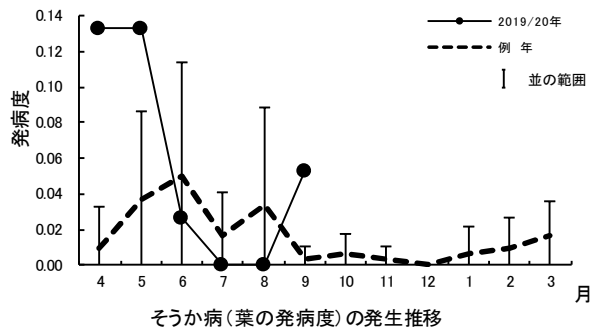
(果実の発病度)



(発病葉率/中央)



(葉の発病度)



防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

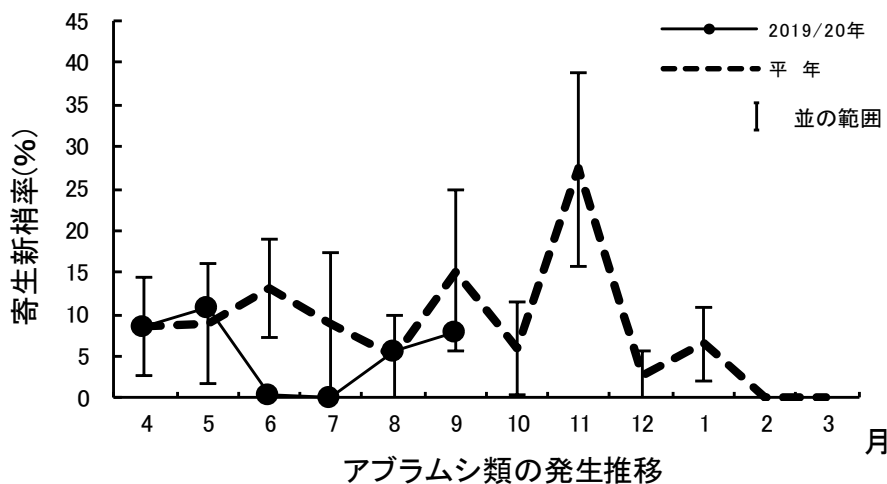
被害葉→



作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	



調査結果




- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）
- ・ 発生種：ユキヤナギアブラムシ(ミカンミドリアブラムシ)、マメアブラムシ

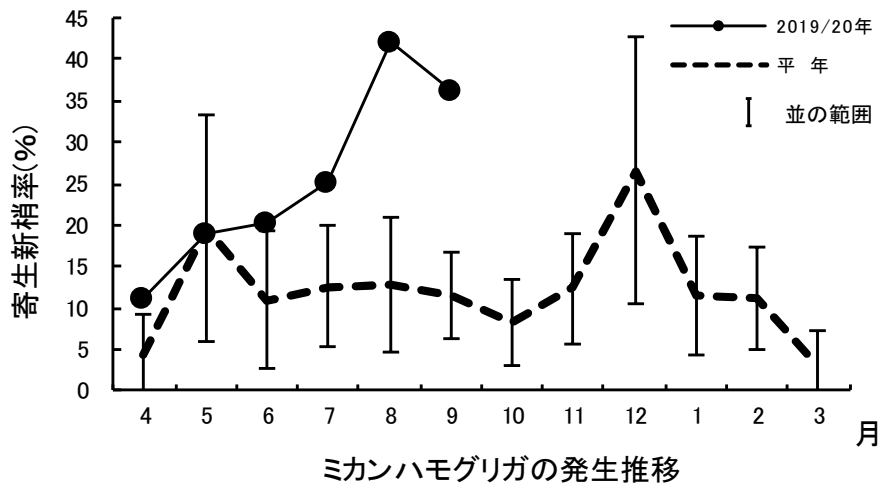
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。




作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
予報	10 月の発生量（平年比）	やや多	
	9 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	9 月の発生量（平年比）	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

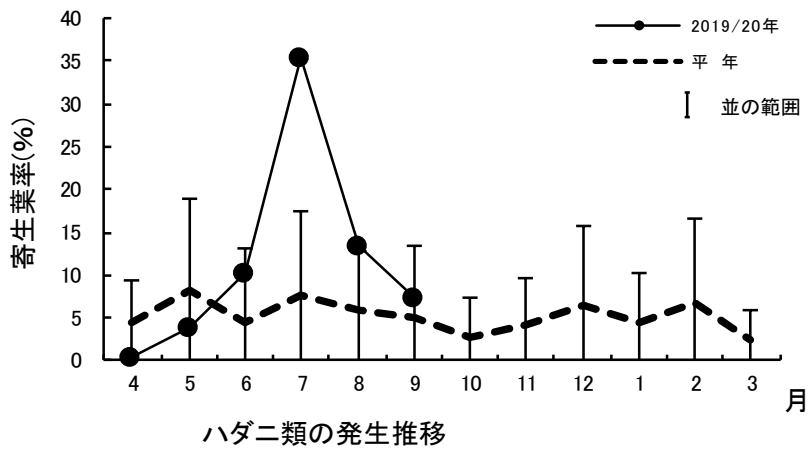


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
予報	10 月の発生量（平年比）	並	
	9 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	9 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↓）	

調査結果



- ・ 一部ほ場で多発した


防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

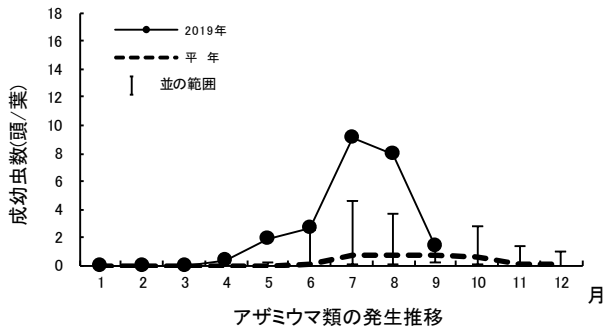


作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

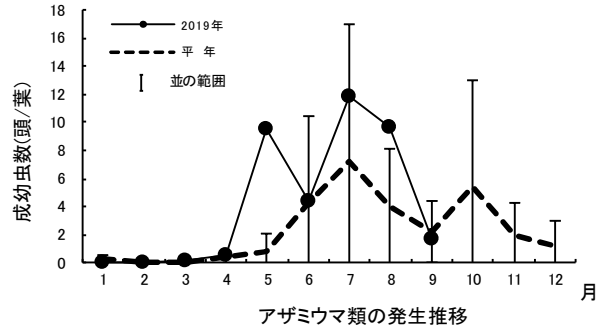
調査結果

(見取り調査)

〈中央値〉

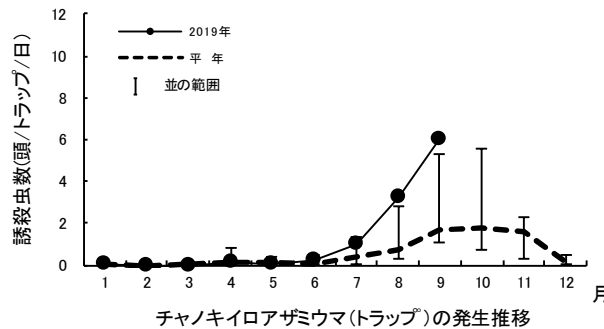


〈算術平均値〉

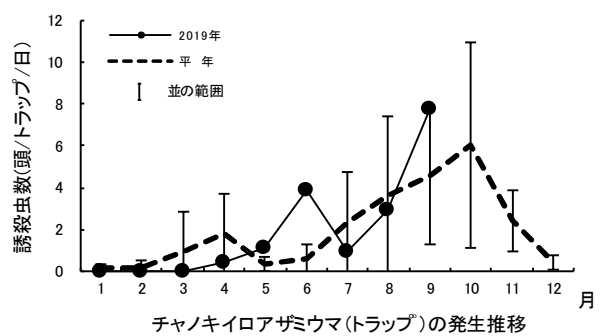


(トラップ調査)

〈中央値〉



〈算術平均値〉




防除のポイント

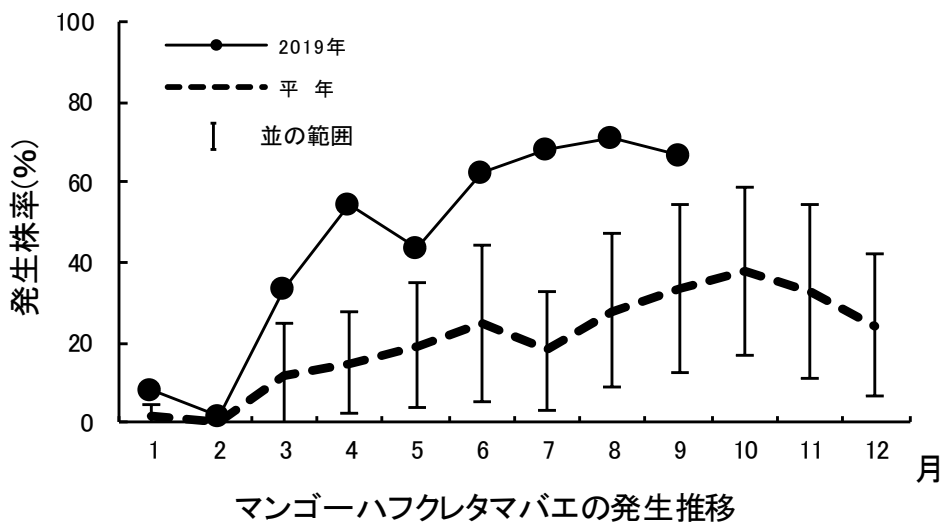
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
	9 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	


調査結果



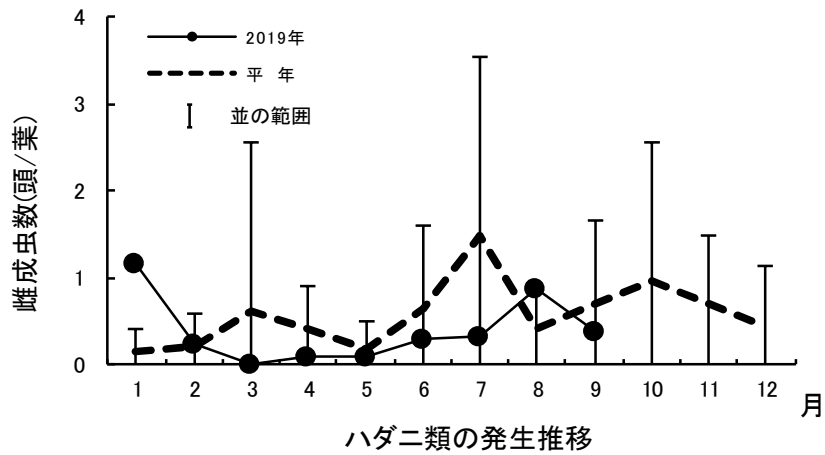
- ・ 被害新梢率 : 27.4%
- ・ 発生施設率 : 100% (平年53.1%)

防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・ 発生施設率：62.5% (平年62.7%)
- ・ 新梢での寄生雌成虫数：0.1頭以下 (発生種：シュレイツメハダニ)

防除のポイント

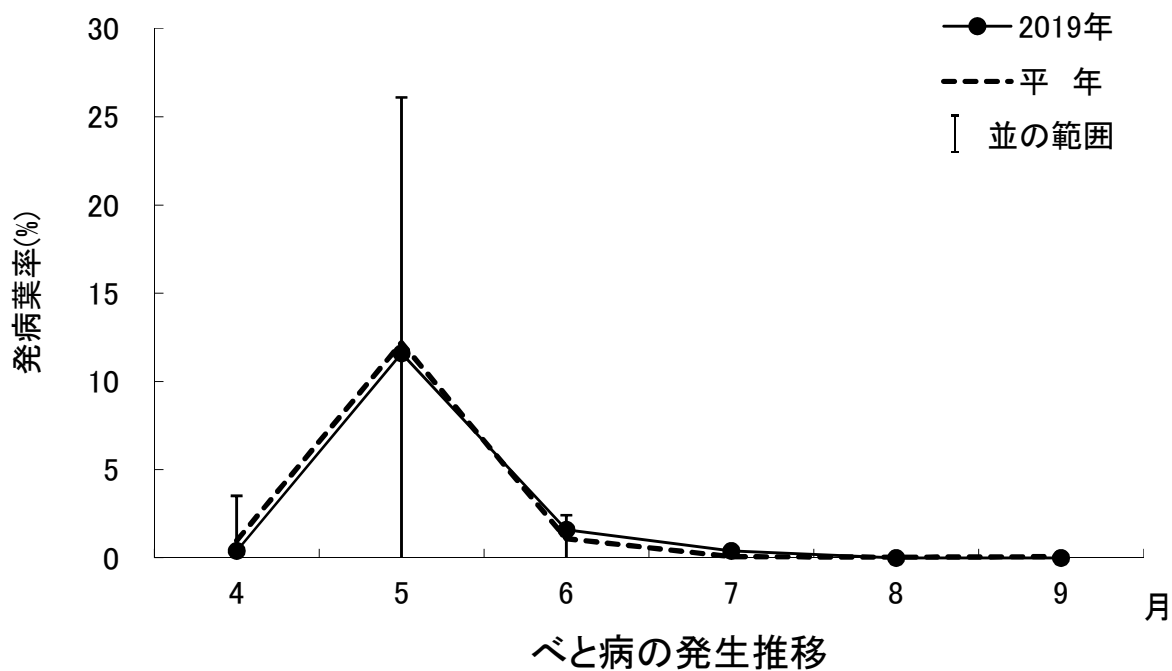
- ・ 晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	① ベと病		
予報	10 月の発生量 (平年比)	—	
	9 月からの増減傾向	—	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果



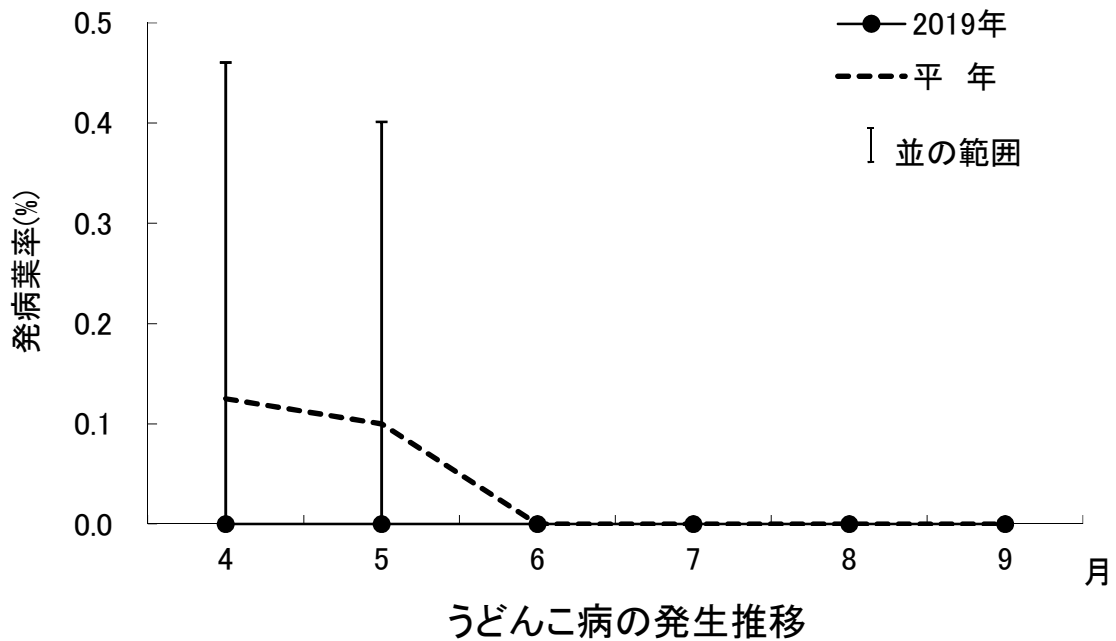
防除のポイント

- ・ 気温が10～25℃で多湿条件下で発生しやすい。
- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 適正な施肥管理を行う。




作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
予報	10 月の発生量 (平年比)	-	
	9 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

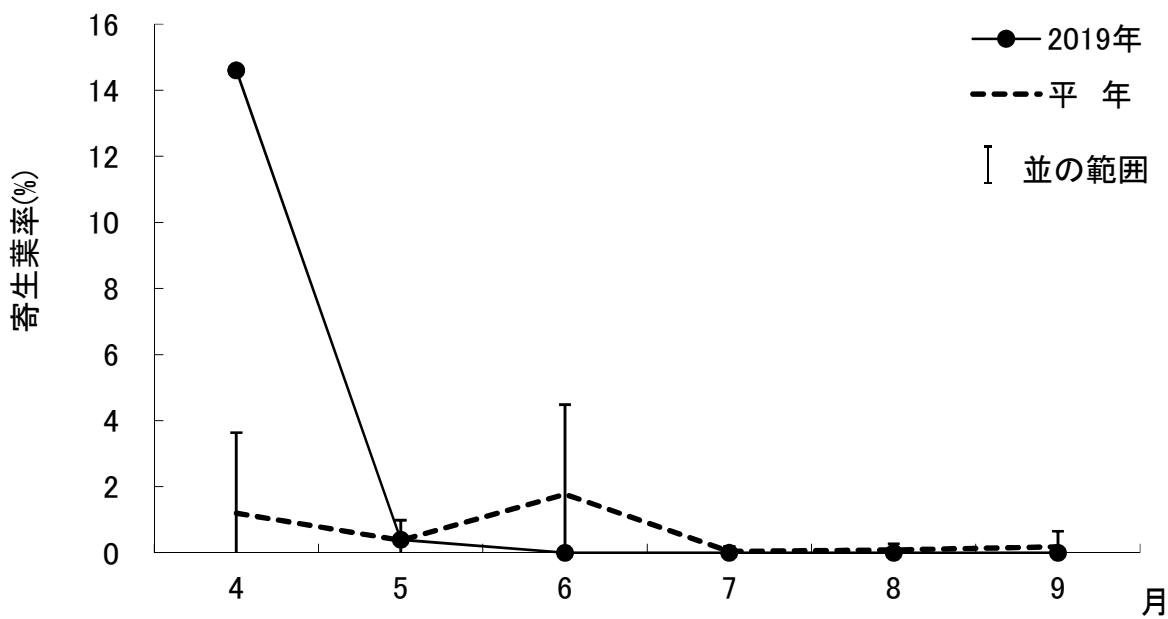


防除のポイント

- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 窒素質肥料の多施用は避ける。
- ・ 発病初期から登録薬剤を散布する。

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
予報	10 月の発生量 (平年比)	-	
	9 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)		

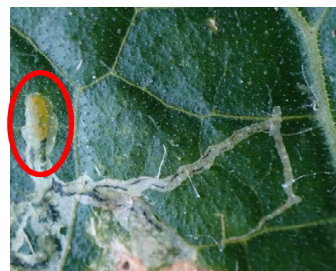
調査結果




ハモグリバエ類の発生推移

防除のポイント

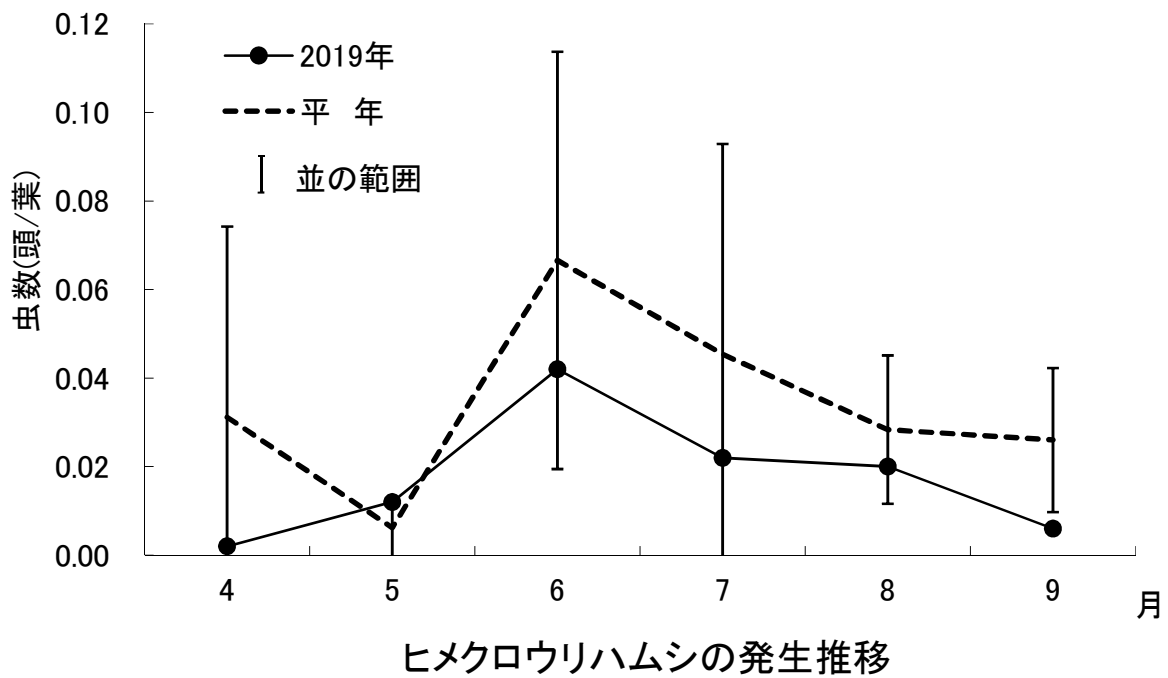
- ・ 本種の寄生痕から病害が侵入する可能性があるため、発生初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるので除去する。



幼虫

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ヒメクロウリハムシ		
予報	10 月の発生量 (平年比)	-	
	9 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)		


調査結果



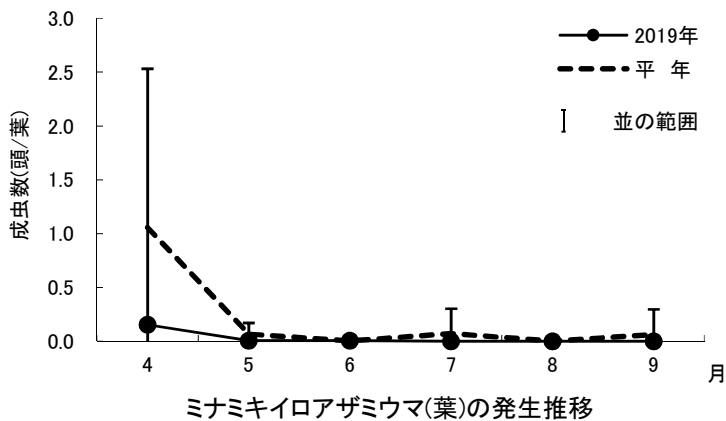
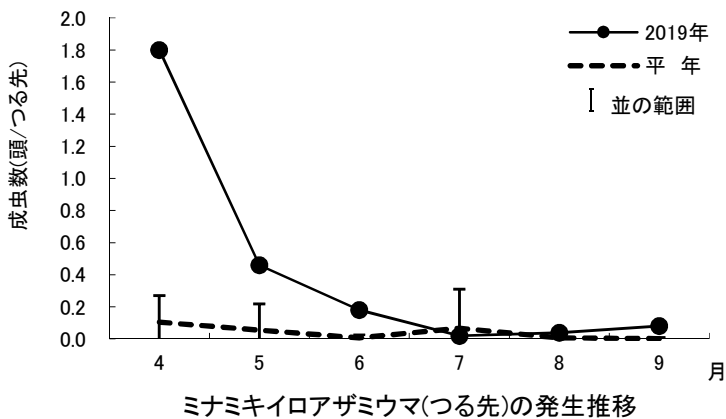
防除のポイント

- ・シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- ・ほ場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- ・産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
- ・動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。



作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミナミキイロアザミウマ		
予報	10 月の発生量 (平年比)	-	
	9 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果




・一部ほ場で多発した。

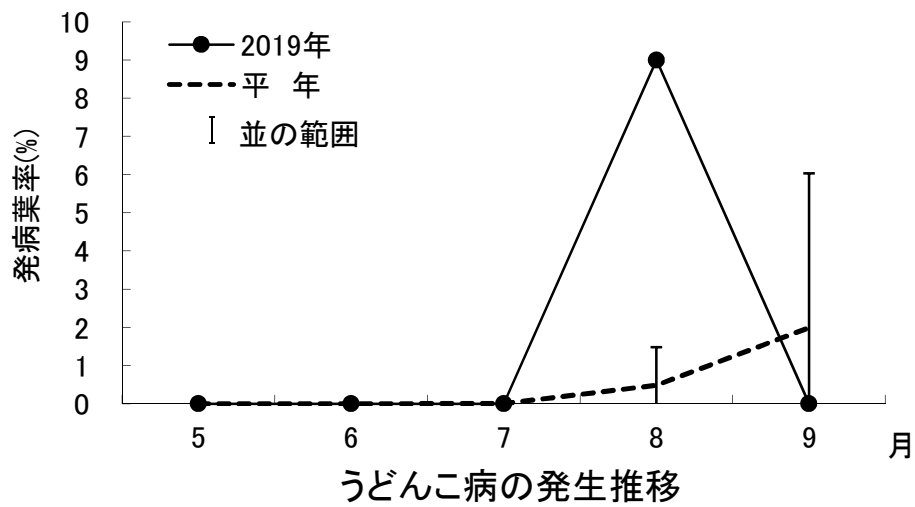
防除のポイント

- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・ 多くの雑草に寄生するため、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
予報	10 月の発生量 (平年比)	-		
	9 月からの増減傾向	-		
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)			

調査結果



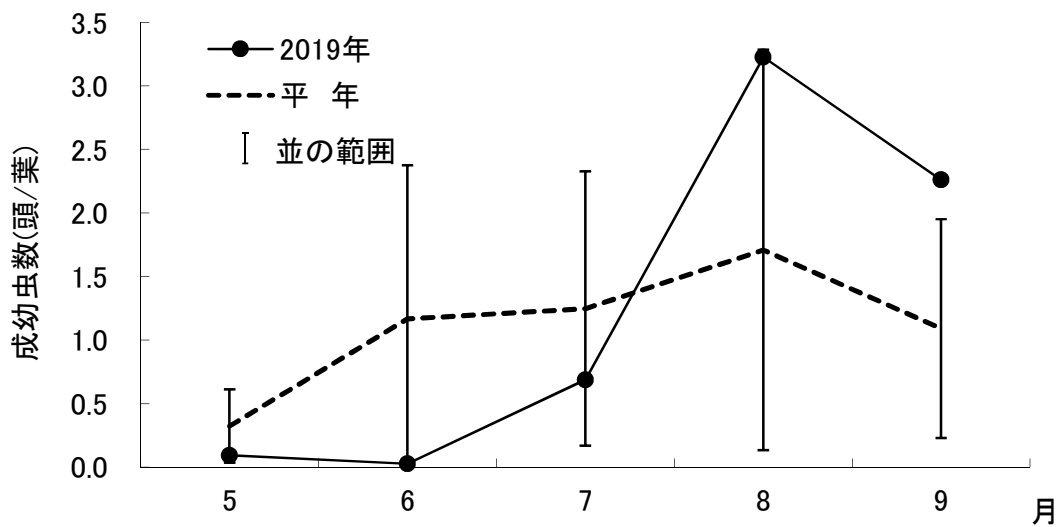
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
予報	10 月の発生量 (平年比)	-	
	9 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)		



調査結果



フタテンミドリヒメヨコバイの発生推移

防除のポイント


・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



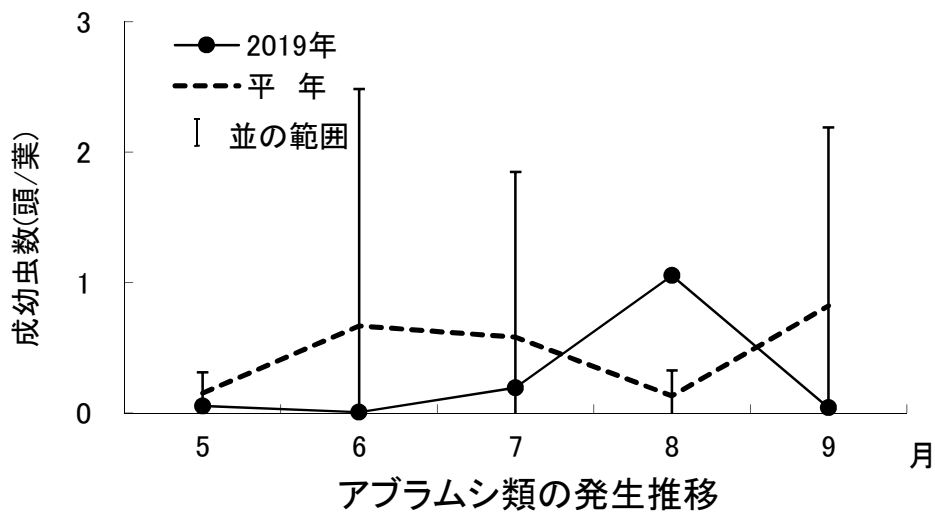
幼虫



被害葉

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	10 月の発生量 (平年比)	-	
	9 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		


調査結果



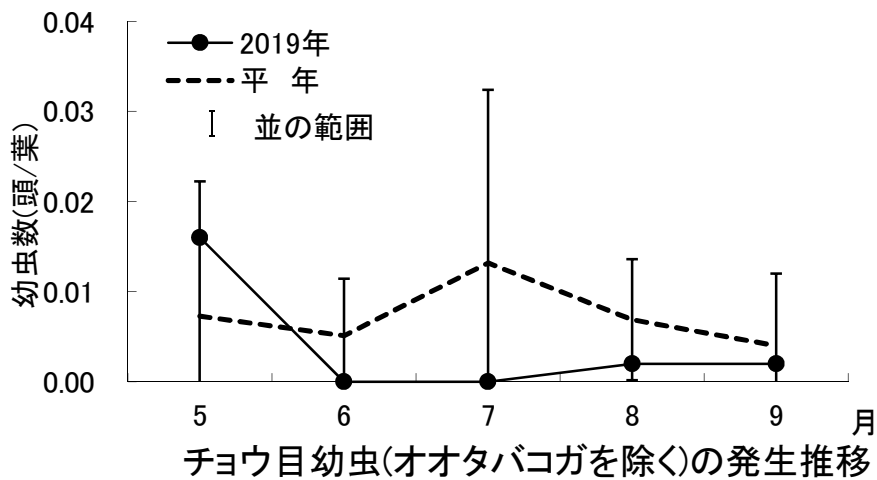
・一部ほ場で発生した。

防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		
予報	10 月の発生量 (平年比)	-	
	9 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果




・葉からワタアカキリバ、果実からクサオビリンガ幼虫が確認された。

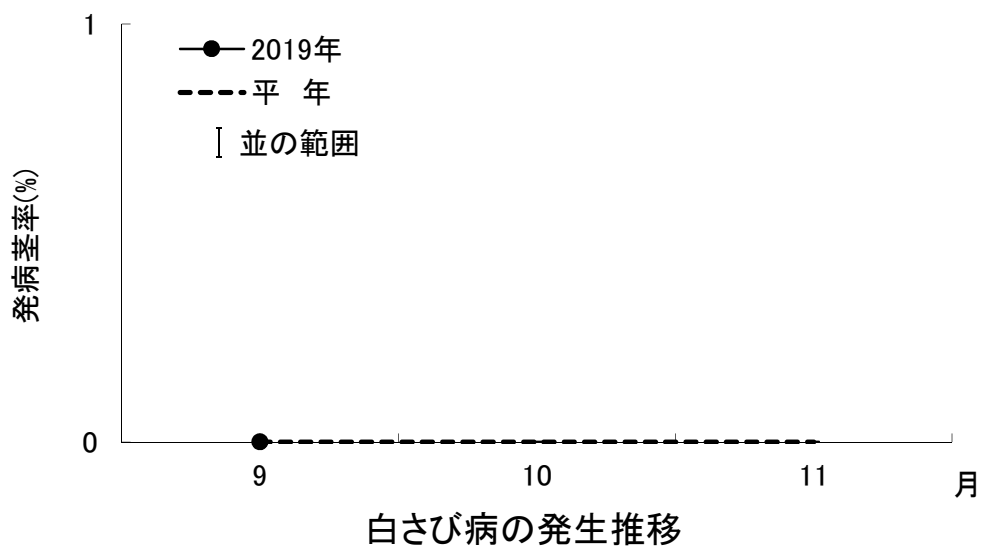
防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。




作物	小ギク(年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	白さび病			
予報	10 月の発生量 (平年比)	並		
	9 月からの増減傾向	→		
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

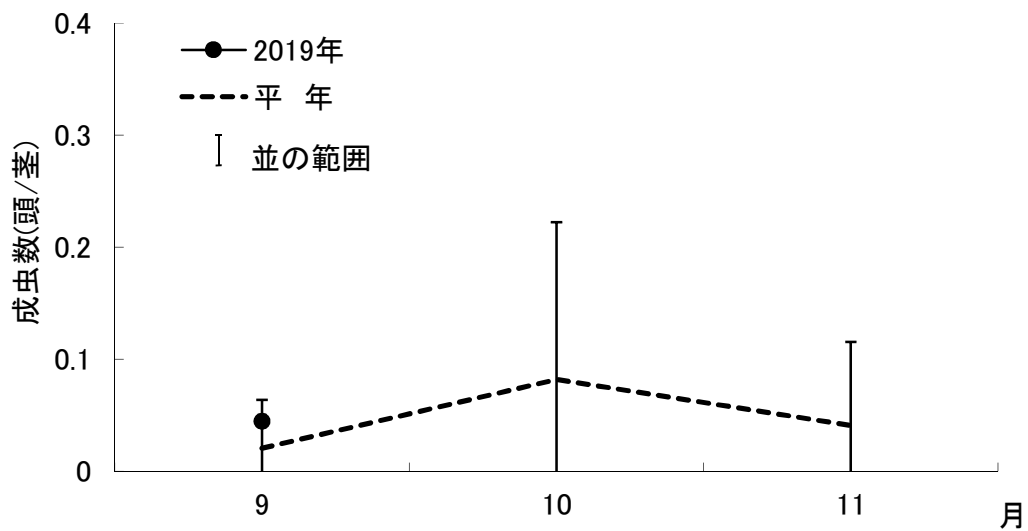


防除のポイント

- ・多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

作物	小ギク(年未出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	① アザミウマ類			
予報	10 月の発生量 (平年比)	並~やや多		
	9 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み		

調査結果




アザミウマ類の発生推移

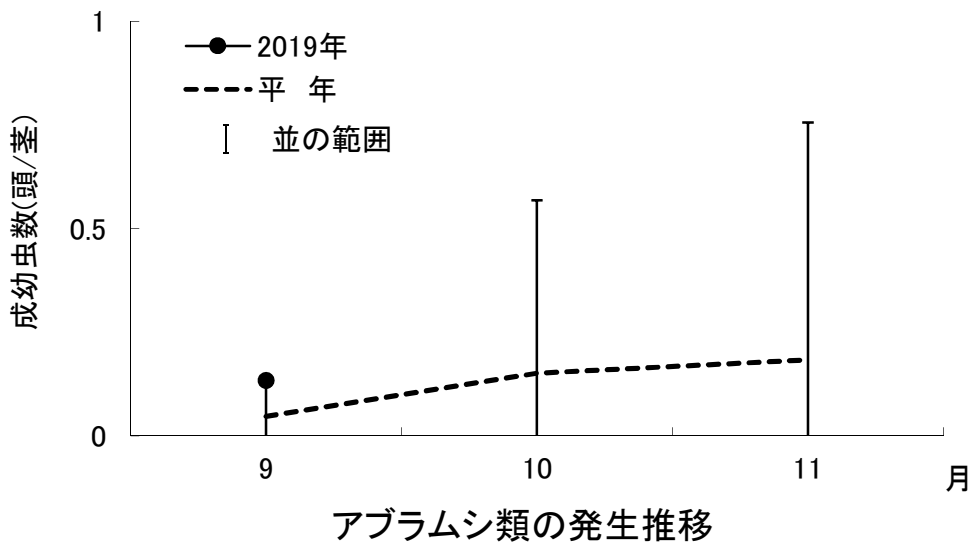
- ・発生種はクロゲハナアザミウマであった。
- ・病害虫防除員報告：中発生(本島北部)、中発生(久米島)

防除のポイント

- ・苗の段階から葉にアザミウマがついていることが多いので、苗床での防除を徹底する。
- ・定植時に粒剤を施用する。
- ・採穂後の親株ほ場はアザミウマの発生源となるため、薬剤散布後、すみやかに片付ける。
- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上~中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。


作物	小ギク(年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類			
予報	10 月の発生量 (平年比)	並~やや多		
	9 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み		

調査結果

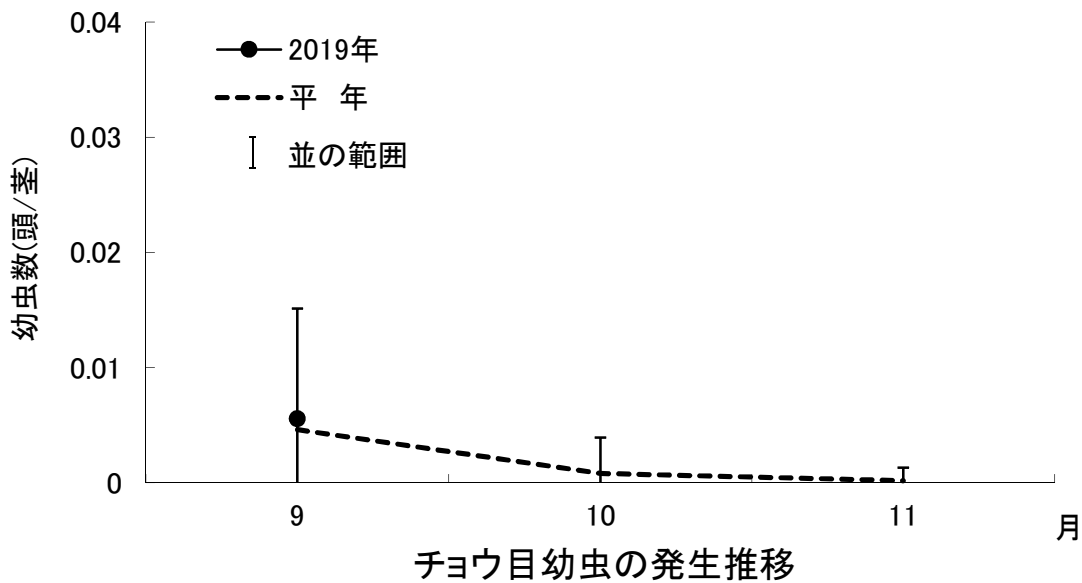


防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。
- ・シルバーポリテープを畦上に張り出すか吊したり等して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・増殖が早いので、新葉や上位葉に多いことに留意し、早期発見・防除に努める。

作物	小ギク(年末出荷用)		地域	沖縄群島	
病害虫名	③ チョウ目幼虫				
予報	10 月の発生量 (平年比)	並			
	9 月からの増減傾向	↓			
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並			
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)			

調査結果



- ・一部ほ場で発生した。
- ・発生種はウワバ類であった。

防除のポイント

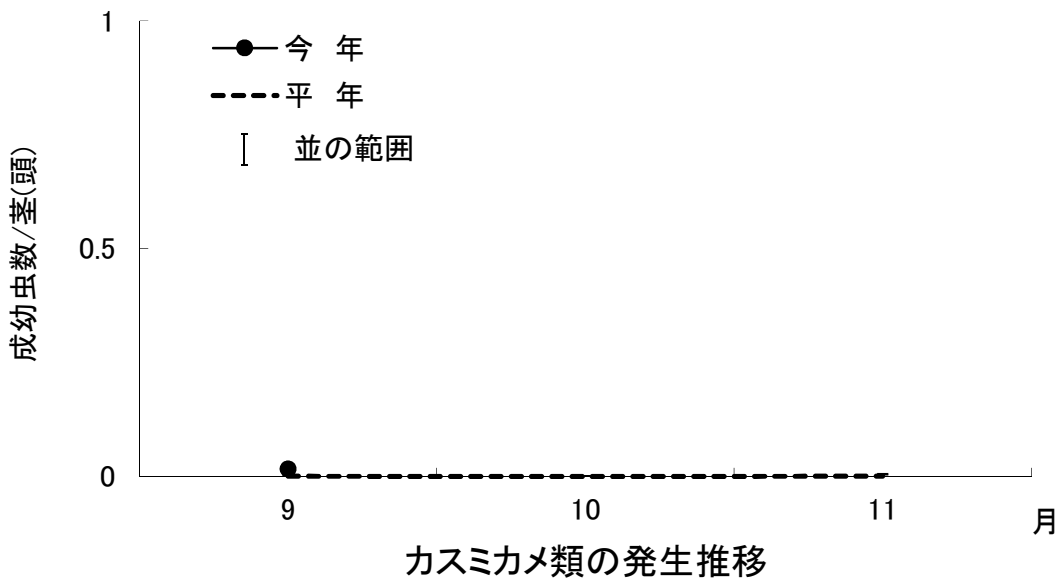
- ・新しい食痕や虫糞をみつけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺する。
- ・卵塊やふ化直後の幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除く。
- ・中齢期以降は農薬の効果が低くなるため、早期発見に努め、若齢期に防除を行う。



作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	




調査結果



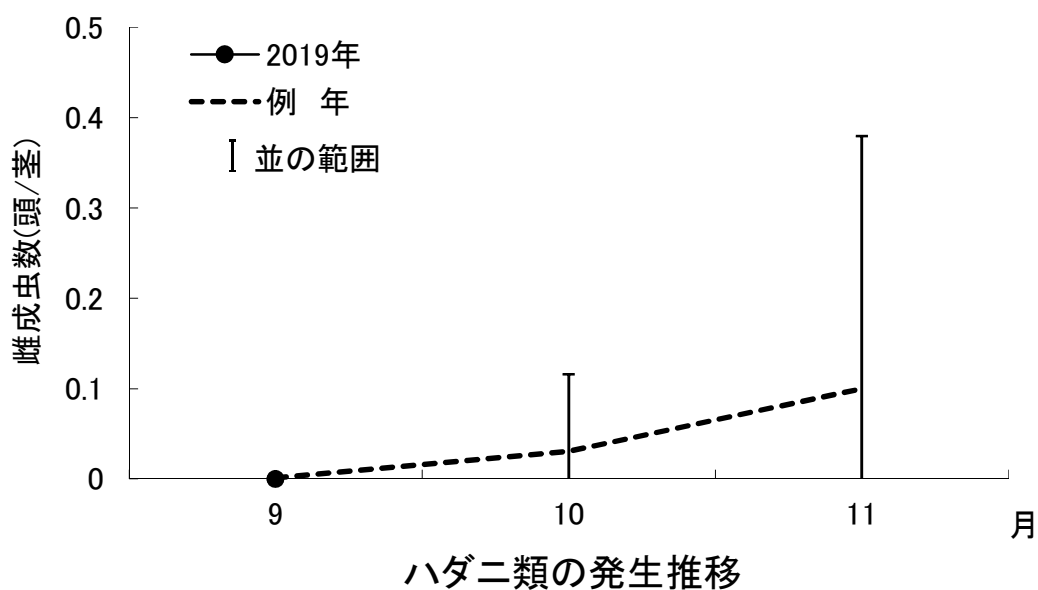
・一部ほ場で発生した。

防除のポイント

- ・電照下では吸汁被害が目立つため、よく観察して防除を行う。
- ・周囲のほ場に収穫残りの花があると発生源になる場合があるので除去する。

作物	小ギク(年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類			
予報	10 月の発生量 (平年比)	並		
	9 月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。